

# 自作教材集（第3分冊）

## 1 言語障害通級指導教室

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1 | 繰り返しの単語練習で音を定着させよう |
| 2 | 息の練習をしよう           |
| 3 | ことばのかくれんぼ          |
| 4 | 何が出るかな（ラ・ダ行発音）     |
| 5 | ことばのプロペラ           |
| 6 | 1日のせいかつ            |
| 7 | ひらがなの積み木           |
| 8 | 「サ行音の練習をしよう」       |

## 2 自閉症通級指導教室

|    |                    |
|----|--------------------|
| 9  | 数の1対1対応・数と量        |
| 10 | こんなときどうする？（中学校準備編） |
| 11 | かんむりのある漢字を覚えよう     |
| 12 | ビッグキャラすごろく         |
| 13 | 「ひらがな・カタカナ ぴったんこ」  |
| 14 | 整理して話そう（メモボードを使って） |
| 15 | 順番にやっぺいこう          |
| 16 | 何があるかな？ことばの列車      |
| 17 | 眼球運動トレーニング         |
| 18 | 「ひらがなカード（拗音）」      |
| 19 | 「こんな時、どうすればいいかな」   |

1 教材名 「サ行音の練習をしよう」（サ行音がシャ行音に置換している児童の構音練習）

## 2 ねらい

- ・「ス」音の聴覚弁別をする。
- ・舌を歯間に置いた[θ]音をつくり、母音[u]をなめらかにつなげ、「ス」をつくる。
- ・目標音が含まれる単語や短文をくりかえし練習し定着を図る。（徐々に[θ]から[s]へ）
- ・「ス」の構音様式を活用し、「サ」「ソ」「セ」を正しく構音し、定着を図る。

3 指導の形態 個別指導

## 4 指導の内容

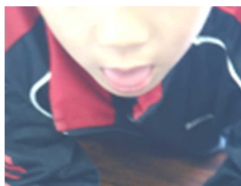
(1) 準備物 聴覚弁別で使うもの（ペグ・〇×カードなど）・呼気調節に使うもの（ストロー・付箋など）・舌の体操に使うもの（鏡・手掛かりカードなど）・目標音の単語カード・単語練習ワークシートなど

### (2) 手順や活用の仕方

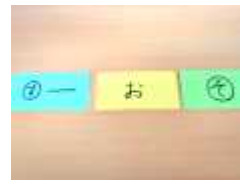
- ① 口や舌の体操（開口・舌挺出・左右を口角につける・回旋・脱力・安定など）  
模型や教師の動きでモデルを示し、鏡を見ながら、ゆっくり行ったりリズムカルに行ったりする。
- ② 音を聞き分ける。  
「ス」が何番目にあるかを聞き出す。（語内位置弁別…例「アイス」の「ス」は3番目）  
正しいか誤っているかを聞き分ける。（正誤弁別…例「アイス？」「アイシュ？」）
- ③ 呼気の調節をする。  
風車やティッシュ吹きなどであそぶ。  
ストローを舌の上のせ、ストローの先から「スー」と息を出す。（付箋をストローの先に当て、息が出ているかを見て確かめられるようにする）同じことをストローなしで練習する。（風さんの息）
- ④ 目標音についての構音操作を練習する。  
「スー[θ]」に母音[u]をなめらかにつなげて「ス」の音をつくる。単音節でバリエーション（連続音・音伸ばし・リズムなど）を変えて練習する。単音から単語（語頭・語尾・語中）短文の練習を行う。  
舌を口腔内に収め[s]の子音を引き出し、定着を図る。
- ⑤ 摩擦音の構音操作を活用して、サ行音の他の音（「サ」「ソ」「セ」）の構音練習をする。



【ペグ・〇×カード】



【平舌安定練習】



【風さんの息から…】



【反復練習】

## 5 指導上の留意点

- ・対象音を含んだ単語をプリントに示し、見通しを持って練習に取り組めるようにする。
- ・構音練習の仕方について保護者へ伝え、家庭でも構音練習が行えるよう宿題を渡し、日常的に練習の機会をつくる。

1 教材名 数の1対1対応・数と量

2 ねらい

- ・ 数字、その読み方、数量を目と手で確認しながら数の1対1対応を身につける。
- ・ 洗濯ばさみを操作し、手指の巧緻性を高める。

3 指導の形態 個別

4 指導の内容

- (1) 準備物 手をかたどった厚紙、洗濯ばさみ(10個)  
数の台紙、数カード、読み方カード、おはじき・半具体物・具体物等

(2) 手順や活用の仕方

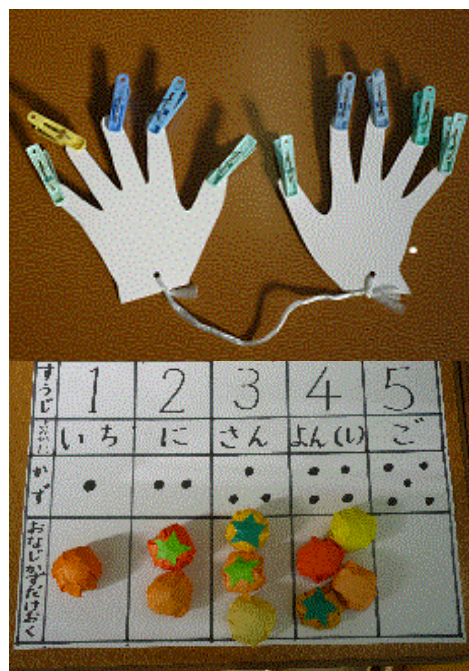
《1対1対応》

(指の形に洗濯ばさみをはさみながら、1対1対応を理解させる。)

- ① 厚紙で作った左右の手形と洗濯ばさみを用意する。
- ② 1から5(または1から10)の数を数えながら、指の形に洗濯ばさみを挟む。数の数唱ができない子や言葉がうまく出ない子には、一緒に数を数え、1対1の対応を確認しながら、洗濯ばさみを付けたり外したりする。
- ③ 1対1対応だけでなく、指先のトレーニングにもなるので人差し指と親指でしっかりつまむよう声をかける。  
(中指、薬指なども使うよう声をかける。)

《数と量》

- ① 数の台紙の上の数字を指でさし、1対1の対応を確認させていく。
- ② 数を言いながら具体物やおはじきなどを置き、量を確認させる。



5 指導上の留意点

- ・ 一緒に声を出しながら、洗濯ばさみの持ち方を見守る。
- ・ 3指持ちで洗濯ばさみをつまむ児童には、人差し指と親指でつまむことを意識させる。(鉛筆の持ち方、箸の持ち方につながる持ち方となる。)
- ・ 量は「ミカンや飴などの具体物」→「作った半具体物」→「おはじき」と変えていく。

1 教材名           こんなときどうする？(中学校準備編)

## 2 ねらい

- ・ 中学校生活での基本的なルールやマナーについて知識として学ぶことができる。
- ・ 中学校生活を具体的にイメージすることで、見通しを持ち、安心した中学校でのスタートをきるることができる。

3 指導の形態       グループ(個別も可能)、通常学級全体での指導

## 4 指導の内容

(1) 準備物           こんな時どうする？(スケッチブックでのイラスト集)

### (2) 手順や活用の仕方

- ① 中学校で知りたいことなどを、話し合いの中で挙げる。
- ② 話し合いを通じて、「自分だったらどうするか」選択肢から決めさせる。  
(分からない、の選択も設定する)
- ③ 暗黙のルールなど、小学校との違いを話し合う。
- ④ 気づいたことや分かったことをまとめる。



## 5 指導上の留意点

- ・ 児童の中には、自分に対する気づきができにくいため、「分からない」という場合も考えられる。選択肢で自分の意思決定をできるようにし、「分からない」ことも認める。



1 教材名 整理して話そう (メモボードを使って)

2 ねらい

- ・自分の伝えたいことを整理して話すことができる。
- ・会話の基本「いつ・だれが・どこで・何を・どうした」を意識して話すことができる。

3 指導の形態 個別の指導・グループ指導

4 指導の内容

(1) 準備物 メモボード・付箋

(2) 手順や活用の仕方

- ・出来事の振り返りスピーチの前に発言することを整理する。
  - ① 何について話をするかを決める。
  - ② いつ・だれが・どこで・何を・どうした・思ったこと を付箋に書く。
  - ③ 枠に付箋をはる。
  - ④ メモボードをもとに、振り返りスピーチを行う。



5 指導上の留意点

- ・メモボード使用の初めは、「いつ」「だれが」「どこで」「何を」「どうした」の順番に付箋を渡し、書かせる。2回目以降は、児童一人で付箋に書かせる。

1 教材名 中学校ってどんな所？

2 ねらい

- ・中学校生活についての見通しを持つことができる。

3 指導の形態 個別の指導・グループ指導

4 指導の内容

(1) 準備物 パワーポイント資料「中学校ってどんな所？」  
中学校の先生からのメッセージ

(2) 手順や活用の仕方

- ① 6年生卒業前に、中学校生活への自分の思い(不安・期待)を話す。
- ② パソコンのパワーポイント資料「中学校ってどんな所？」を見る。
- ③ 中学校の先生からのメッセージを聞く。
- ④ 授業後の感想を話す。

5 指導上の留意点

- ・パワーポイント資料の作成時には、中学校に協力を得る。

(校舎内・年間行事予定・部活の活動風景・授業風景・時間割等の写真、質問の答え、クイズ)

- ・前もって6年生児童から中学校に聞きたいことをまとめておき、中学校の教師に聞く。
- ・中学校の先生から、入学への前向きなメッセージ(音声)をもらう。
- ・6年生に中学生活への不安を軽減し、進学を前向きに捉えられるよう十分配慮する。

## 学習

①各教科ごとに専門の先生が授業を行う。

②授業時間は月曜日から金曜日まで5～6時間  
放課後には部活動がある。

③学期に定期テスト(中間テスト・期末テスト)・  
実力テストも数回ある。

アドバイス)授業中のプリント、テストの問題や答案は  
大切に保存し整理しておきましょう。